

(個別研修) 鳥居いづみ

**研修テーマ：知的障害を持つ人が地域で暮らすための環境整備とサービス提供について
－サービス提供分野の垣根を超えた連携、地域とのつながり－**

研修地：ドイツ ヘッセン州 ヘルプシュタイン・シュトックハウゼン、アルテンシュリーフ

研修施設：Gemeinschaft Altenschlirf (人智学共同体、障害者支援団体)

研修日：5月15日～6月20日

【高齢障害者のための日中活動部門コンティキ (Tagesstruktur KonTiki)】(5月22日～5月26日)

活動内容：美術療法、オイリュトミー、音楽療法、乗馬療法、動物セラピー、マッサージ、ゲーム等

商品内容：絵画 (ぼかし絵等)、モザイク作品、毛糸の飾り、カード等

設備等：リビング (活動室)、キッチン、美術療法室、多目的セラピー室 (大小各1)、静養室、
トイレ (身障者用3, 職員用1)、事務室



コンティキの外観

天気の良い日には外で外気浴やモザイクタイルの色分けなどの活動を行っている。

右後ろのマグダ・フンメル・ハウスに住む方が多く利用している。

左側の茶色の建物は福祉専門学校で共同体は実習施設の一つである。



セミナールーム (大)

オイリュトミー (シュタイナーの考えた舞台芸術) などに使われている。

私も一度参加させていただいた。

大地のエネルギーを感じられるよう、底の薄い靴を履き講師の言葉に合わせて決まった動きをつけていった。



リビング（活動室）、美術療法室の棚等、家具はすべて収納するもののサイズを測って木工部門が製作した。どの職員が見てもわかりやすく整理されていた。



持参した折り紙で作った鳩を
ピンタコスタ用に飾った



モザイクタイルの作品

- ・KonTiki は、作業が難しい高齢障害者の日中活動場所で、日本でいう生活介護にあたる。ただし、けが等により一時的に利用することもできる。作業に戻るには、医師からの許可と作業部門との打ち合わせ（復帰に向けてのスケジュール、作業内容）が必要である。
- ・50代半ばから60代半ばの11人が利用（定員16人）、常勤職員2人、そのほかパートタイム職員と実習生が午前午後で入れ替わり対応し、常時5人程度が従事している。
- ・常勤職員の一人は教育芸術セラピストで、ほかし絵やタイルを使ったモザイク作品作りなどに力を入れている。日替わりでマッサージやオイリュトミー、歌のセラピー、乗馬療法、動物セラピーなどを提供している。それぞれ専門のセラピストが定期的に訪問している。これらのセラピーは、医師からの診断書、指示があれば保険で受けられる。

【介護付き住宅マグダ・フンメル・ハウス (Magda-Hummel-Haus)】



外観。コの字型になっている



食堂。中央奥にキッチンがある

Magda-Hummel-Haus は、共同体設立 40 年を迎え、利用者の高齢化に対応するため、バリアフリーの住居として 2019 年に建設された。

共同体の住居のほとんどは平地ではないところに建築されている。また、住居内外の階段や段差も多く、麻痺がある方、足腰の弱った高齢者が住み続けることは難しい。さらに、通常住居管理者・職員は 24 時間介護の勤務体制になっておらず、認知症や昼夜逆転等により常時見守りが必要になった方は住むことができない。

Magda-Hummel-Haus には 18 部屋（長期 16、短期 2）があるが、短期利用の 2 部屋は旧職員も利用することができる。個室はバスルームつき。コの字型の建物は中央廊下から東西に 9 部屋ずつに分かれている。それぞれに玄関、キッチン、リビング、ダイニング、活動コーナーがある。食事はダイニングでとる人が多いが、自室でとることもできる。

中央廊下の 2 階は、職員の住居や事務室、会議室となっている。

廊下には、連絡通路でつながっている高齢者の活動部門 Kontiki による絵が飾られている。この連絡通路は、体調が悪い人、外に出られる状態ではない場合、悪天候時に使われ、通常は外玄関を利用するようにしているとのこと。

Magda-Hummel-Haus には夜勤シフトがあるものの、常時医療的な処置が必要な人を対象にはしていないため、入院、退去を検討する必要がある。

なお、今後も利用者の高齢化が見込まれるため、将来的にはバリアフリー住宅を増やすことを検討しているとのこと。